



## 特殊設定

---

この章では、ネットワーク上の特別な機能を果たすようにブリッジを設定する方法について説明します。クライアントがアソシエートできるようにブリッジをアクセスポイントとして設定することも、イーサネット対応デバイスをLANに接続できるようにブリッジをワークグループブリッジとして設定することもできます。

この章の内容は、次のとおりです。

- [アクセスポイントとしてのブリッジの設定 \(P.20-2\)](#)
- [ワークグループブリッジとしてのブリッジの設定 \(P.20-3\)](#)

## アクセス ポイントとしてのブリッジの設定

ブリッジをルート アクセス ポイントとして設定することができます。ルート アクセス ポイントとして設定すると、ブリッジは次に挙げるデバイスからのアソシエーションを受け入れます。

- 無線クライアント
- リピータ アクセス ポイント
- 非ルートブリッジ
- ワークグループブリッジ

アクセス ポイントとしてブリッジを設定する手順は、次のとおりです。

	コマンド	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b>	グローバル設定モードを開始します。
ステップ 2	<b>interface dot11radio 0</b>	無線インターフェイスのインターフェイス設定モードを開始します。
ステップ 3	<b>station-role root</b> [ <b>ap-only {fallback [repeater   shutdown] }</b> ]	ブリッジの AP モードを有効にします。ap-only に設定できます。ブリッジを ap-only モードに設定すると、ブリッジは 1100 シリーズのアクセス ポイントと同等のデバイスになります。1100 シリーズのアクセス ポイントのフォールバック オプションと同じように機能するフォールバック パラメータもオプションで指定できます。
ステップ 4	<b>end</b>	イネーブル EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	<b>copy running-config startup-config</b>	(オプション) コンフィギュレーション ファイルに入力内容を保存します。

### 文法説明

#### root-ap-only

ブリッジがルート アクセス ポイントとして機能するように指定します。イーサネット インターフェイスが機能しない場合、装置はアクセス ポイントの操作続行を試みます。ただし、無線にはフォールバック モードを指定できます。

#### fallback repeater

(オプション) プライマリ イーサネット インターフェイスが動作しない場合には、アクセス ポイントがリピータ モードで動作することを指定します。

#### fallback shutdown

(オプション) プライマリ イーサネット インターフェイスが動作しない場合にアクセス ポイントがシャットダウンするよう指定します。

## ワークグループブリッジとしてのブリッジの設定

ブリッジをワークグループブリッジとして設定することができます。ワークグループブリッジとして設定すると、ブリッジは次のように機能します。

- 次のデバイスにアソシエートします。
  - ルートアクセスポイントとリピータアクセスポイント
  - ルートブリッジ、非ルートブリッジ、およびリピータブリッジ
  - 非ルート Cisco Aironet 350 シリーズブリッジ（クライアントあり）
- VxWorks および 802.11b/g IOS ベースのアクセスポイントとブリッジの両方で動作します。
- 有線クライアントのみを受け入れます。
- IAPP メッセージングを使用して、ブリッジのルート親に、接続されているすべての有線クライアントについて通知します。

### 制限

ブリッジをワークグループブリッジとして設定した場合は、次の制限が適用されます。

- シスコのアクセスポイントとブリッジと共にのみ動作します。
- ルートによって、インフラストラクチャクライアント、または BSS クライアントとして処理される必要があります。インフラストラクチャクライアントとして処理される場合、ワークグループブリッジにも同様に VLAN が設定されていなければなりません。BSS クライアントとして処理される場合、VLAN の設定は必要ではありません。
- ワークグループブリッジが VLAN 環境で機能するように、IOS AP またはルートブリッジで CLI の「infrastructure\_client」を設定する必要があります。
- IOS AP またはルートブリッジが VLAN 環境の 350 または 340 シリーズのワークグループブリッジと共に動作するように、CLI の「infrastructure\_client」は設定できません。

ワークグループブリッジとしてブリッジを設定する手順は、次のとおりです。

	コマンド	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b>	グローバル設定モードを開始します。
ステップ 2	<b>interface dot11radio 0</b>	無線インターフェイスのインターフェイス設定モードを開始します。
ステップ 3	<b>station-role workgroup-bridge</b>	ブリッジのワークグループブリッジモードを有効にします。ブリッジを 350 シリーズのワークグループブリッジと同等のデバイスに変えます。
ステップ 4	<b>end</b>	イネーブル EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	<b>copy running-config startup-config</b>	(オプション) コンフィギュレーションファイルに入力内容を保存します。

### 文法説明

#### station-role workgroup-bridge

ブリッジがワークグループブリッジモードで動作するように指定します。ワークグループブリッジとして、デバイスはクライアントとしてのアクセスポイントまたはブリッジにアソシエートし、そのイーサネットポートに接続されたデバイスに無線 LAN 接続を提供します。

